

Ⅲ. 実施事業

1. 取組実施内容と目標値

(1) 特定健康診査受診勧奨事業

既存事業 と健康課 題の関係	現状	平成28年度特定健診受診率52.2% 40～50歳代の受診率38.4% ・40～44歳代34.7% ・45～50歳代33.5% ・51～54歳代39.7% ・55～59歳代45.0%		
	課題	働き盛りの若い世代からメタボ予備軍が多い傾向にあるため、若い世代への受診勧奨が必要		
事業目的		40歳代50歳代の特定健康診査受診率の向上		
事業企画	対象者	40歳から74歳の被保険者		
	実施期間	特定健康診査：7月から翌年2月 未受診者への通知：10月		
	事業内容	特定健康診査を受診していない者を対象とし、特定健康診査の受診を促す		
	実施体制・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・健診申込のない者、申込したが未受診の者について個別通知を行う ・かかりつけ医からの情報提供 ・地域での若い世代への情報提供 ・乳幼児健診時に受診勧奨チラシの配布 ・市内小中学校児童・生徒から保護者に向けて受診勧奨チラシの配布 ・消防団・商工会に向けて受診勧奨チラシの配布 		
評価計画	評価	目標値（評価項目・評価指標）	評価体制・方法	実施時期
	アウトプット	特定健康診査未受診者へ郵送による受診勧奨実施率100%	対象者を抽出し、通知を送付完了したかの確認	通知送付の翌月
	アウトカム	特定健康診査受診率 平成35年度 60% 40歳から50歳代の受診率平成35年度 45%	対象者のうち特定健康診査を受診した人数より算出	平成35年度末

(2) がん検診受診率向上事業

既存事業 と健康課 題の関係	現状	<p>○平成28年度がん検診受診率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃がん10.1% ・肺がん25.2% ・大腸がん24.3% ・子宮がん14.0% ・乳がん29.7% <p>○平成28年度がん精密検査受診率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃がん87.3% ・肺がん92.5% ・大腸がん77.7% ・子宮がん79.2% ・乳がん96.4% 				
	課題	悪性新生物（腫瘍）が死因の第1位を占め、件数や医療費が上位になっている				
事業目的		がん検診受診率の及びがん精密検査受診率の向上				
事業企画	対象者	被保険者				
	実施期間	子宮頸がん・乳がん無料クーポン券：5月から翌年1月 がん検診精密検査未受診者勧奨：12月から翌年3月				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の受診勧奨 ・子宮頸がん、乳がんの無料クーポン対象者への受診勧奨 ・精密検査未受診者への受診勧奨 				
	実施体制・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・がん検診は市の総合健診・人間ドックと同時実施 ・子宮頸がん、乳がんの無料クーポン対象者へ個別通知を郵送し受診勧奨 ・未受診者へ、11月の未受診者健診前に再度、受診勧奨の個別通知を郵送 ・健診機関より受診状況を把握できた精密検査未受診者に電話連絡をし、受診状況の確認と未受診者へは受診勧奨 				
評価計画	評価	目標値（評価項目・評価指標）			実施時期	
	アウト プット	がん検診受診率の向上 精密検査に対するの追跡率100%			年度末	
	アウト カム	がん検診 受診率	平成32年度	精密検査 受診率	平成32年度	平成32年度末
		胃がん	20%	胃がん	90%	※平成33年度以降は がん対策推進計画 に沿って目標値を 設定します
		肺がん	30%	肺がん	93%	
大腸がん		30%	大腸がん	80%		
子宮がん		20%	子宮がん	80%		
乳がん	35%	乳がん	97%			

(3) 特定保健指導事業

既存事業 と健康課 題の関係	現状	平成28年度特定保健指導率68.9% 積極的支援実施率44.6% 動機づけ支援実施率77.9%		
	課題	がん、高血圧性疾患、糖尿病等の生活習慣病の治療患者の増加		
事業の目的		<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の発症や重症化を予防 受診勧奨判定値以上の人に医療機関への適切な受診勧奨を行う 		
	対象者	40歳から74歳の被保険者で特定保健指導対象者		
	実施期間	8月から翌年9月		
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ①総合健診説明会で特定保健指導対象者へ第1回の面接を実施 ②積極的支援者に保健指導実施の同意書を取り、健康あっぷ教室参加型・電話訪問支援型に分けて6カ月間の保健指導を実施 ③3医療機関の人間ドック健診において積極的支援を実施 ④3医療機関の人間ドック健診において動機づけ支援を実施 ⑤治療が必要な対象者へ受診勧奨をすることで早期の対応を図る 		
	実施体制・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○健康あっぷ教室参加型(年2回) <ul style="list-style-type: none"> ・教室開催と栄養教室(グループ支援) ・3カ月評価教室:計測・採血・個別面接 ・6カ月最終評価教室:計測・採血・個別面接 ・2回の電話支援 ○電話支援型 <ul style="list-style-type: none"> ・数回の電話・面接実施 ○治療が必要な対象者へは、初回面接時に受診勧奨後、電話勧奨 		
評価計画	評価	目標値(評価項目・評価指標)	評価体制・方法	実施時期
	アウトプット	特定保健指導対象者への指導実施率の5%向上	積極的支援、動機づけ支援者の実施率を算出	翌年度末
	アウトカム	特定保健指導対象者数5%減少	対象者のうち特定保健指導を完了した人数より算出	翌年度末

(4) 糖尿病性腎症重症化予防事業（プログラム）

既存事業 と健康課 題の関係	現状	平成28年度 5名実施		
	課題	生活習慣病を起因とする透析患者割合の増加		
事業目的		糖尿病性腎症者の病期進行阻止		
事業企画	対象者	特定健診による①及び②または①及び③に該当した者 ①HbA1c値7.0%以上または空腹血糖値130mg/d l 以上 ②尿蛋白2+以上 ③eGFR50未満		
	実施期間	9月から翌年2月（6カ月間）		
	事業内容	特定健康診査の検査値とレセプトデータから対象者を特定し、正しい生活習慣を身に付けられるように専門職より6カ月間の面談・電話指導を行う		
	実施体制・方法	①対象者へのプログラム参加の案内送付 ②同意のあった対象者に対して、その人にあった専門職（保健師、看護師、栄養士）が面談3回、電話支援3回、手紙支援3回を行い、検査数値や生活習慣の変化を確認する ③かかりつけ医への報告を行う		
評価計画	評価	目標値（評価項目・評価指標）	評価体制・方法	実施時期
	アウトプット	対象者への通知率100%	対象者を抽出し、通知が送付完了したかの確認	年度末
	アウトカム	指導実施完了者の糖尿病性腎症における病気進行者数0人	生活習慣改善率の確認（食習慣の変化・運動習慣の変化・検査数値の変化HbA1c）	年度末

(5) 糖尿病性腎症重症化予防事業（いきいき腎臓病講座）

既存事業 と健康課 題の関係	現状	透析患者のうち生活習慣病が起因66.7%。 そのうち糖尿病腎症、Ⅱ型糖尿病が55.6%腎機能C、D判定者88名		
	課題	対象者がCKD(慢性腎臓病)についての理解を深め、生活改善を図るためにも 講座への参加勧奨が必要		
事業目的		糖尿病性腎症者の病期進行阻止		
事業企画	対象者	健診結果にて腎機能判定がC、D判定の者		
	実施期間	10月から11月		
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「いきいき腎臓」講座 1回目≪病態編≫ 2回目≪食生活編≫を実施する ・D判定者への受診確認電話及び未受診者へ受診勧奨 		
	実施体制・方法	<ul style="list-style-type: none"> ①対象者の総合健診結果表に講座のチラシを添付し、検査結果説明時に参加を促す ②腎機能C・D判定者のリストを作成し、D判定者を優先に電話による講座への参加勧奨をする ③参加希望者へ事前に電話し、参加の確認を行う ④「いきいき腎臓」講座第1回目≪病態編≫実施 ⑤「いきいき腎臓」講座第2回目≪食生活編≫実施 ⑥塩分チェックシートアンケートの実施 ⑦行動変容のためGW：自己目標の発表、意見交換 ⑧講座アンケート実施 		
評価計画	評価	目標値（評価項目・評価指標）	評価体制・方法	実施時期
	アウトプット	講座参加者35名	講座参加者の数	講座終了後
	アウトカム	指導実施完了者の糖尿病性腎症における病気進行者数0人	D判定者の受診状況を電話で確認	年度末
		生活改善率85%	講座参加者のアンケートによる本人の評価を集計する（病態の理解・生活習慣）	講座終了後

(6) 受診行動適正化事業

既存事業と健康課題の関係	現状	平成28年度 受診行動適正化100%		
	課題	平成27年度より重複服薬の実人数が増加している		
事業目的		重複・頻回受診者、重複服薬者の減少		
事業企画	対象者	重複受診：1カ月に3医療機関以上重複している 頻回受診：1医療機関に8回以上受診している 重複服薬：同系医薬品の投与日数合計が60日を超える		
	実施期間	10月に通知を送付し、希望者への支援を行う		
	事業内容	レセプトデータから、医療機関への重複・頻回受診者、重複服薬が確認できる被保険者を特定し、適切な医療機関へのかかり方を専門職が支援し、健康に関する相談を受ける。		
	実施体制・方法	①レセプトデータから対象者を特定する ②対象者への案内文書の送付、電話による事業の詳細説明、同意を得られた被保険者へは面接、電話での支援を行う ③受診行動の改善状況を確認する		
評価計画	評価	目標値（評価項目・評価指標）	評価体制・方法	実施時期
	アウトプット	対象者への指導実施率10%	通知対象者のうち支援を希望し、指導を実施した人数より算出	年度末
	アウトカム	受診行動適正率50%	指導後のレセプト確認	年度末

(7) 健診異常値放置者受診勧奨事業

既存事業と健康課題の関係	現状	平成28年度 受診勧奨通知65名 40歳代10名 50歳代18名 60歳代28名 70歳代9名		
	課題	通知者65名中6名が医療機関を受診 通知後の医療機関受診率向上のため通知内容の工夫が必要		
事業の目的		健診異常値を放置している被保険者の医療機関受診		
事業企画	対象者	前年の特定健康診査で異常値が出たが、その後医療機関を受診していない被保険者		
	実施期間	年1回 (10月)		
	事業内容	特定健康診査の結果に異常値があるにも関わらず医療機関受診が確認できない被保険者を特定し、通知を送付することで受診勧奨を行う		
	実施体制・方法	①健康診査データ及びレセプトデータから対象者を特定 ②受診勧奨通知を送付 ③医療機関受診状況を確認		
評価計画	評価	目標値 (評価項目・評価指標)	評価体制・方法	実施時期
	アウトプット	対象者への通知率 100%	対象者を抽出し、通知が送付完了したかの確認	通知送付後
	アウトカム	医療機関への受診率を5%向上	通知後医療機関への受診の有無をレセプトで確認	年度末

～この通知は、平成28年度の特定健

健診の異常値を

- まだ医療機関を受診されていない方は、
 - **平成29年度の特定健診を必ず受診**し、
- 特定健診受診時に異常値が発見され、医療機関への受診せずに受診された方や経過観察されている方等、行き違

治療の中断または、まだ受診さ

- 健診結果は必ず確認しましょう。
- 精密検査や治療が必要な場合は、必ず受診しましょう。

今年の健診日程は裏面へ!

- 日ごろの生活習慣が、検査結果に影響を及ぼしています。どのような生活習慣が、異常値につながっているのか考えることが大切です。
- できることから、生活習慣を変えましょう。



あなたはどのレベル?

レベル2	● 糖尿病 ● 高血圧 ● 高脂血症
レベル1	● 高血圧 ● 高脂血症 ● 脂質異常症(心臓病発症リスク) ● 脂質異常症(脳卒中発症リスク) ● 脂質異常症(動脈硬化発症リスク)

厚生労働省生活習慣病対策

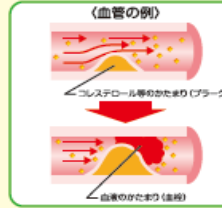
自立した人生を送るために、40歳以上の方は
引用資料:健康寿命を延ばそう! Smart Life Project HP

ジェネリック

一患者さんの負担を軽減

気づかいうちにあなたのからだにも・・・

異常値があるのに、このまま病院を受診せずにいると、血管がもろくなったり、神経が傷ついたりしていきます。



この状態を放置しおへん・・・

知らぬ間に重症化し、深刻な状態になるおそれがあります。



年に1度健診を受けて、自分の健康は自分で守りましょう!

健診が運命の分かれ道

～健診受診者・未受診者 2人の行方～

たかく つくそう
高久 筑造さん

自覚症状もないし、健診は受けなくていいだろう

数年後・・・
脳出血発症!

初診料、特別追加料、投薬、検査、処置、等々
受診した月の医療費
合計 **3,124,410円**
医療費の心配、受診日の調整等の負担

けんこう いい
兼好 伊治さん

自覚症状はないけど、健康維持のために健診を受けよう!

健診結果・・・
「経過観察」

生活習慣の見直し

翌年の健診では「異常なし」
仕事や趣味等自分らしい生活をおこす

特定健診未受診者健診のご案内

特定健診のここがすばらしい!!

- その1** 自覚症状のない生活習慣病の重症化を予防できるのは健診だけ!
- その2** 健診の後には、無料で健康やダイエットのサポートが受けられる「特定保健指導」もあり!
- その3** みんなで健診を受ければ、みんなの保険料が安くなる!

健診日程

平成〇年〇月〇日(〇)
受付: 午前〇時
 } 午前〇時
場所:

「若いから」「元気だから」大丈夫と思わず、今こそ健診を受けましょう
～めざそう、健康寿命の延伸～

お気軽にご相談・お問い合わせください **中央市役所 保険課 ☎055-274-8545**

(8) 生活習慣病治療中断者受診勧奨事業

既存事業 と健康課 題の関係	現状	平成28年度 受診勧奨通知32名		
	課題	平成28年度 受診勧奨通知32名中2名が医療機関受診 通知後の医療機関受診率向上のため通知内容の工夫が必要		
事業目的		生活習慣病治療中断者の減少		
事業企画	対象者	生活習慣病の治療で医療機関を受診していたが、治療を中断している被 保険者		
	実施期間	年1回(10月)		
	事業内容	かつて生活習慣病で定期受診をしていたが、その後受診を中断した対象 者を特定し、通知を送付することで受診勧奨を行う		
	実施体制・ 方法	受診勧奨通知送付後の医療機関への受診状況を確認		
評価計画	評価	目標値 (評価項目・評 価指標)	評価体制・方法	実施時期
	アウト プット	対象者への通知率 100%	対象者を抽出し、通知 が送付完了したかの確 認	通知送付後
	アウト カム	医療機関受診率の5% 向上	通知送付後の受診再開 をレセプトで確認	年度末

～この通知は、生活習慣病の治療を中断していると思われる方にお送りしています～

生活習慣病は継続して治療を受けることが大切です。生活習慣病の症状が悪化していることもあります。もし、治療を中断されている方、すでに主治医の指導で経過観察されている方等、

※診療報酬明細書(レセプト)を基に生活習慣病の受診を中断している方、すでに主治医の指導で経過観察されている方等、

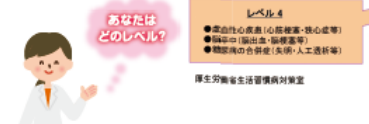
生活習慣病の治療を中

治療を中断されていたら、手遅れ

- 健診結果は必ず確認しましょう。
- 精密検査や治療が必要な場合は、必ず受診しましょう。

今年の健診日程は裏面へ!

- 日ごろの生活習慣が、検査結果に影響を及ぼしています。どのような生活習慣が、異常値につながっているのか考えることが大切です。
- できることから、生活習慣を変えましょう。



自立した人生を送るために、40歳以上の方はもちろ

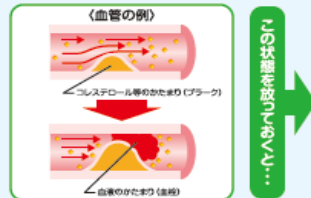
引用資料:健康寿命を延ばそう! Smart Life Project HP

ジェネリック医薬品

一患者さんの負担を軽くし、

気づかないうちにあなたのからだにも・・・

このまま病院を受診せずにいると、血管がもろくなったり、神経が痛んだりしていきます。



知らぬ間に重症化し、深刻な状態になるおそれがあります。



年に1度健診を受けて、自分の健康は自分で守りましょう!

健診が運命の分かれ道

～健診受診者・未受診者 2人の行方～

たくましく つくまろく 高久 筑造さん

自覚症状もないし、健診も受けなくていいだろう

数年後・・・
脳出血発症!

初診料、時間外加算、投薬、検査、処置、等々
受診した月の医療費
合計 3,124,410円
医療費の心配、受診日の調整等の負担

みんなの健康を 兼好 伊治さん

自覚症状はないけど、健康維持のために健診を受けよう!

健診結果・・・
「脳過緊張」

生活習慣の見直し

翌年の健診では「異常なし」
仕事や趣味等自分らしい生活を送る

特定健診未受診者健診のご案内

特定健診のここが素晴らしい!!

- その1** 自覚症状のない生活習慣病の重症化を予防できるのは健診だけ!
- その2** 健診の後は、無料で健康やダイエットのサポートが受けられる「特定保健指導」もあり!
- その3** みんなで健診を受ければ、みんなの保険料が安くなる!

健診日程

平成〇年〇月〇日(〇)

受付: 午前〇時
～
午前〇時

場所:

「若いから」「元気だから」大丈夫と思わず、今こそ健診を受けましょう
～めざそう、健康寿命の延伸～

お気軽にご相談・お問い合わせください 中央市役所 保険課 ☎055-274-8545

(9) ジェネリック医薬品差額通知事業

既存事業と健康課題の関係	現状	ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)56.9%					
	課題	14歳以下の被保険者のジェネリック医薬品普及率が低い					
事業目的		ジェネリック医薬品の普及率の向上					
事業企画	対象者	ジェネリック医薬品へ切り替えることで自己負担額が100円以上の軽減額効果が見込まれる被保険者					
	実施期間	差額通知 年6回(7月から12月)					
	事業内容	レセプトデータから、ジェネリック医薬品の使用率が低くジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の対象者を特定し、対象者へ通知を送付することで、ジェネリック医薬品への切り替えを促す					
	実施体制・方法	レセプトデータから対象者を特定し、差額通知を送付					
評価計画	評価	目標値(評価項目・評価指標)				評価体制・方法	実施時期
	アウトプット	対象者への通知率100%				対象者を抽出し、通知が送付完了したかの確認	通知送付翌月
	アウトカム	ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)				前年度と年平均を比較し算出する	年度末
	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度		
	60%	64%	68%	72%	76%	80%	

ジェネリック医薬品差額通知書デザインについて

ジェネリック医薬品差額通知書には、ジェネリック医薬品の安全性、コストが低い理由等を記載し、安心して切り替えのできる記載内容とします。また、切り替えた場合の軽減額と実際に処方された医薬品の情報をわかりやすく表示します。

123-4567 000000001

〇〇県△△市□□ 1-2-3

様

〒1234567890
00000123#

1234567890
000000001

番号 1234567890

お薬代負担軽減のご案内

平成 25年 2月 処方分 を、現在よく流通しているジェネリック医薬品に
 切り替えた場合、お薬代の負担が (2月時点での負担割合です)

1,700円～

軽減されます。

(100円未満は切り捨てています。)

平成25年 2月分の処方実績					
医療機関・薬局区分	お薬の単価	数量	単位	お薬代※2 (3割負担)	軽減できる金額※3
薬品名※1					
薬局					
サラソピリン錠 50.0mg	23.1	504.0	錠	3,490	890 ～
ザンタック錠 150 150mg	40.6	56.0	錠	680	530 ～
ムコスタ錠 100mg	17.4	168.0	錠	870	310 ～
小計				5,040	1,730 ～
合計				5,040	1,730 ～

※1 薬品名とは

処方されたお薬(先発医薬品)の名称です。医療機関・薬局ごとに記載しています。

※2 お薬代とは

1か月にかかったお薬代です。(お薬代だけの記載で、実際にお支払いになった金額と異なる場合があります。)

※3 軽減できる金額とは

今ご使用されているお薬をジェネリック医薬品に切り替える事によって軽減できる金額の目安です。

ご注意ください

- 本明細は、医療機関・薬局の過去の請求データに基づいて作成されています。本明細に記載しきれない場合は、軽減効果が大きい医療機関分から順に記載しています。
- 国や市町村から医療助成を受けている場合、実際の支払額と異なる場合があります。
- ジェネリック医薬品は1つの先発医薬品に対して複数存在する場合がありますため、実際の軽減額には幅があります。
- 上記に記載する医薬品には、がんその他特殊疾病に使用されるお薬、短期処方のお薬については除外しています。
- 先発医薬品とジェネリック医薬品は主成分は同一ですが、個人によって効き目や副作用などは異なる場合があります。詳しくは医師・薬剤師にご相談ください。
- 本通知書はお薬をご使用されているすべての加入者の方にお送りしているわけではありません。

K1003 (13.04)

ジェネリック医薬品

平素は、の運営にご理解・ご
 きて、近年の医療の高度化等に伴い、家計に占める
 そで、皆様の治療に係る費用負
 担をジェネリック医薬品に切り替えた場合に薬代が
 おります。是非参考にしていただけではないと思
 います。ジェネリック医薬品への切り替えは、医師・薬
 師で行っていただきますようお願いいたします。

ジェネリック医薬品
お薬代負担を軽減

新薬

開発期間

ジェネリック

開発期間 開発コスト

ジェネリック医薬品は、
安心のお薬です。

ジェネリック医薬品は薬事法に基づき、
新薬と有効成分・効き目が同じものとして
開発・製造・発売されています。

厚生労働省の
承認を受けた薬だから
安心ね!

お問い合わせ先

【ジェネリック医薬品通知サポートデスク】

受付時間: 〇〇時～〇〇時 土・日・祭日